

発行/モザイク会議 議長 情野良夫 tel:080-1260-7972

モザイク会議事務局：〒185-0012 東京都国分寺市本町 4-12-4 司アートシティ 104

モザイク会議ホームページ：http://www.maa-jp.com/ Email:maaj@maa-jp.com

編集/作成：モザイク会議運営委員会

## モザイク展 2017 の日程決定！

会場・横浜市民ギャラリーあざみ野

会期・2017年9月4日(月)～17日(日)



今年は例年より早く会場の使用許可が取れました。  
10月中旬に募集要項を決定し、12月中にはみなさんに送れるように準備する予定です。

## 海外作家・新宿伊勢丹展

新宿伊勢丹百貨店5階、展示スペース

期日・9月28日(水)～10月11日(火)



海外モザイク作品の展示を新宿伊勢丹で行うことになりました。  
去年あざみ野で、今年はオリエアートギャラリーで展示したものです。会員の皆さんにはもう見慣れた作品ばかりですが、今回が最後の展示です。

伊勢丹でイタリアフェアが開催される機会に、展示されますが、アートギャラリーでの展示には作品数が少なすぎるということで、5階喫茶室へ向かう通路の展示スペースに展示されます。

伊勢丹展終了後、残った作品は会員経由で4割引きで販売します。

11月1日から15日の間に喜井(042-331-5719)へ。メールもOK

岐阜県多治見笠原町。といえば、私たちにもなじみの深い日本一のタイルの町です。

名古屋モザイクの本社があり、モザイクタイルミュージアムができました。

その笠原に住む女性たちが集まった「モザイクプリンセス」という12名のグループの活動が注目を浴びています。

2013年に活動を開始し、今まで15か所のゴミ集積所をモザイクで飾ってきました。モザイクプリンセスたちには予算もない、専門技術にも疎いが、タイルの中で暮らしてきた自負があるようです。楽しみながらセメントを練り、タイルを割っていると、ときには近所の職人さんたちが手伝いに来てくれる。

モザイクタイルで飾られたゴミ集積所は周囲を明るくし、汚れをはじくタイルの特質が生きています。

「タイルの町らしい景観を作りたい」、「タイルの良さをアピールしたい」という意欲が影になりました。この元気な、意義深い活動を紹介してもらいました。



モザイクプリンセスの面々

## モザイクプリンセスとゴミステーション

モザイクプリンセスメンバー・各務典子

八月から九月へ、月は替っても相変わらずの暑さの中、喜井さんから一通の手紙が届き、「モザイクプリンセスの紹介をしてほしい」とありました。私達の活動に目を止めて下さり、有難く存じます。

私達は活動を始めてから日も浅くこの秋で三年、町内に在るゴミの集積所をモザイクタイルで装飾しているボランティアグループです。「モザイクプリンセス」と自称しています。メンバーは30代～60代の女性12名、殆どの人が仕事を持ちその半数がタイル産業に関わる仕事で、無職の人は2名。モザイク会議の方たちの様に教室で基礎から学んだ人は僅かで、タイルへの想いも温度差こそありますが、バランスのとれた良いメンバーです。



時間に余裕のある人を核に3チームに分かれ、地元有志が提供して下さった作業場で制作し、年に3基を目標として全員揃ってのモザイク画製作は月一回、ゴミステーション現場の施工は真冬と真夏を避けて年三回です。

活動の起りは三年前の秋。その日初めて夫からタイル商社のチャージングな奥さん、ユッコちゃんを紹介され、私が「タイルカー」(5年前に共同制作で作った、タイルで覆われた車)や公民館のモザイク画に関わっていることから町の景観の話になり、「タイルの町なのにそれらしさが全く無いって寂しいねえ、私達女性の手でタイルの故郷みたいになりたいね。」と時間を忘れて話しました。



この頃夫は（ご主人はモザイクタイルミュージアム館長の各務寛治さんです。）何処かでタイルの展示をしなければ笠原のモザイクタイルは忘れられてしまう、と20年集め続けた一万点を越す収集品を納める施設建設に取り組んでいましたが、建設には否定的な意見が多く町でも8割の人が反対、有志の方に支えられつつ、私にはもはや執念だけで歯を食いしばってやっている様に見えました。

そんな夫に「ささやかでいいから形の残る物でバックアップしてあげたい」という気持ちもありました。「郵便受け？」「プランター？」楽しくない。ふと閃いたのがゴミステーション、これだ！結果は的中、ゴミ置場という敷居の低さで、出来が悪くたって許されるし、全国でも前例がないから比較されることも無い。地元の人は忘れかけていたレトロモザイクの魅力を再認識し、ゴミステーションは大切に使われ、15基になった現在は、確実に町の彩りに変わりつつあります。

モザブリー一番のタイルフェチ恵利奈さんは「モザイク美鈴」（曾根研さんのお店）へも通い自宅には作品が一杯。彼女曰く、「外で製作するメリットは自宅に作品が溜まらないこと」とズバリ。又、「自分のデザインに他人の手が入ると何か張りが出て思い掛けない味が出る」これは私も同感です。そして共に汗を流し一つになって達成する喜びは、無論言うまでもありません。

ゴミステーションはまだ114基も残っています。モザイク会議の皆さんで是非とも一基制作して下さい。心からお待ちしております。